

●河川の形態

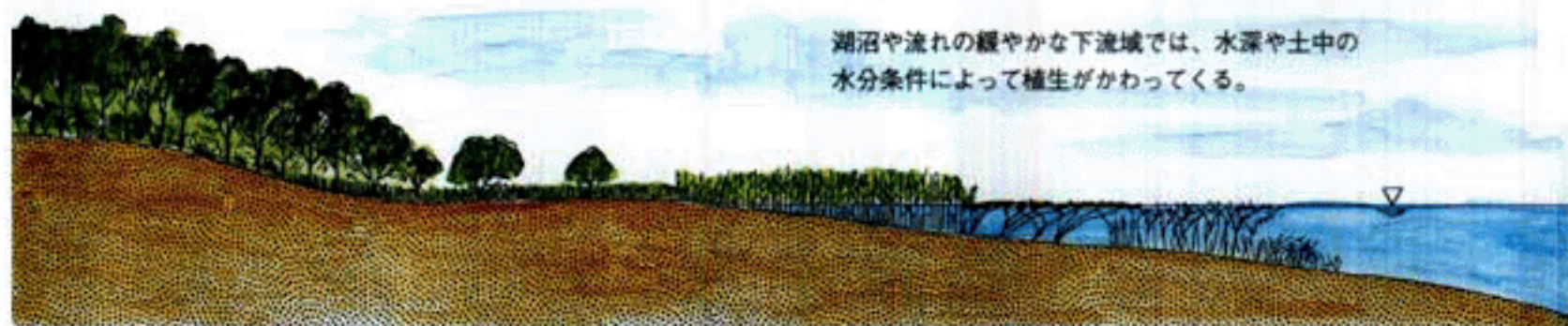
河川生態学の分野では、浅く流れの速い「瀬」と深く流れの緩やかな「淵」が、蛇行した河川区間にどのように現れるかをみて、河川を分類しています。

上流域では一蛇行区間に瀬と淵が複数個存在し、瀬から淵へと段差を伴い移行します (Aa型)。中流域では一蛇行区間に一組の瀬と淵が存在し、淵に続いて流れが速く水深

の浅い平瀬が現れ、次いで波立つような早瀬が出現します (Bb型)。下流域は深く流れもゆるやかになって、瀬から淵へは波立たずに移行します (Bc型)。

このような多様な河川の形態に依存して、様々な生きものが生息しています。

多様な植物群落が発達している水辺の植生模式図



湖沼や流れの緩やかな下流域では、水深や土中の水分条件によって植生が変わってくる。

硬木帯

軟木帯

水辺林

湿生植物帯

抽水植物帯

浮葉植物帯

沈水植物帯

沖 帯

(イラスト提供：桜井善雄氏)

●河川の生態系の特徴

河川は変化に富んだ環境をもつため、その生態系も多様な野生生物が複雑に関わり合って構成されるという特徴をもちます。例えば同じ流れのなかでも淵と瀬という河川構造が異なる部分では、流速や河床に応じて生活系の異なる水生昆虫や魚類が生息しています。

さらに水域と陸域が接している場所では、多くの場合上

の図のように、水深や水分条件に適応して狭い場所に実に様々な植物の群落が見られます。こうした植物の生育域を採餌または生活の場として様々な動物が利用し、多様性に富んだ河川の生態系が構成されています。つまり河川の生態系は陸地の生態系と連続的につながっている、開放的な性格をもっています。